

学協会の国際化



グローバル化の現状と課題

計測自動制御学会

(The Society of Instrument and Control Engineering: SICE)

国際担当常務理事 福原聡

Agenda



- ☞ SICEの概要・組織・事業
- ☞ SICEにおける国際化のあゆみ
- ☞ SICEにおける国際化の現状
- ☞ SICEにおける国際化の課題点
- ☞ まとめ

SICEの概要



- ❧ 1961年に日本計測学会と自動制御研究会が合併して発足
- ❧ 計測工学、制御工学、システム工学の研究者・技術者を中心とする
- ❧ 2010年に公益社団法人に移行
- ❧ 正会員数は5,072名。学生会員が329名。賛助会員190社、海外在住会員 45名。(2015/5/10現在)
- ❧ Annual Conference 参加者数約700名。海外からの参加者数 123名。(2014)

SICEの組織



- ❧ 部門
 - ❧ 計測部門
 - ❧ 制御部門
 - ❧ システム・情報部門
 - ❧ システムインテグレーション部門
 - ❧ 産業応用部門
 - ❧ ライフエンジニアリング部門
- ❧ 支部
 - ❧ 北海道～九州支部 等

SICEの事業



- 年次大会(Annual Conference: AC)、部門・支部年次大会
- 定期発行学術誌「計測と制御」等
- IEEEなどの国際学会との国際会議の(共催)開催
- 人材育成事業(SICE計測エンジニア認定制度)
- 国際標準化 など

SICEにおける国際化のあゆみ



- 1986 : 学術講演会で初めて国際セッションを設ける (IES of IEEEの協賛)
- 2002 : SICE学術講演会の国際会議化(Annual Conference化) = 口頭発表を含め会議を全て英語化
- 2006 : ICROS(韓国)とカンファレンスを共催
- 2008 : 英文論文集JCMSI*の発行
- 2010 : 台湾でAC主催
- 2015 : 中国でCCC & SICE ACを開催予定

*Journal of Control, Measurement and System Integration

国際化の現状：目標



☞ 2019末のあるべき姿 (SICE中期事業計画2015-2019)

“SICEの名が、アジア地域で、計測・制御・システムの学界でのトップブランドになっている”

☞ 中期目標：

- ☞ 研究者・技術者の議論の場を提供する
- ☞ 教育・人材育成
- ☞ 国際標準の提案
- ☞ 国際交流

国際化の現状：実績



☞ Annual Conferenceにおける各種活動

- ☞ 奨学金、ミーティング等

☞ アジア各国の学会との連携、展開

- ☞ ICROS(韓国)、TCCT(中国)、CAOS(台湾)、ECTI(タイ)、ACA(アジア)

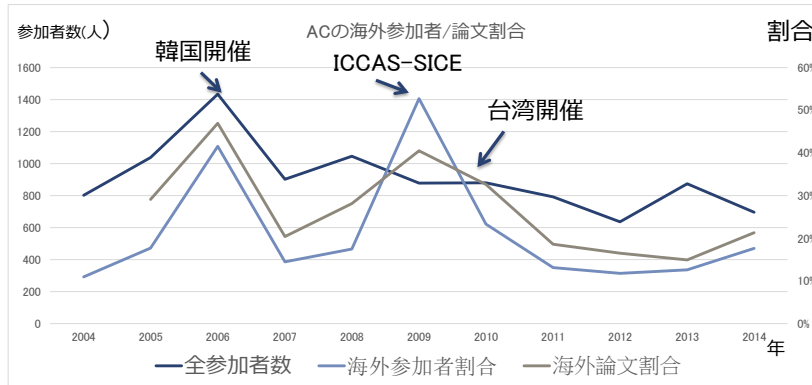
☞ SICE国際化支援プログラム

- ☞ 2014,2015で実施/準備中

☞ 国際標準化(検討中)

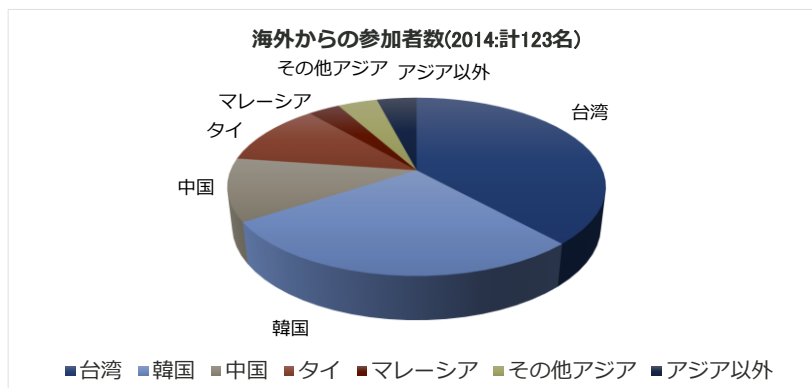
- ☞ IEC TC65/ISO TC184

AC参加者数/論文数割合



5,6人に一人は海外から

AC国別参加者割合



SICE会員の国際化



- ☞ 会員数 5400人 (正会員、学生会員含む)
- ☞ 海外在住外国人 0.6%
- ☞ 国内留学生 5.2%

AC参加者に比べて低い割合

国際化の課題点



- ☞ ACなどで活発な議論がなされていないのでは？
 - ☞ →アジアの技術的なレベルアップが必要？
- ☞ 十分な情報が英語化されていないのでは？
- ☞ そもそも”トップブランド”の具体的な指標は適切か？
 - ☞ AC等への海外からの参加、投稿
 - ☞ 外国人会員数
 - ☞ JSIMCへの外国人投稿/引用数
 - ☞ 海外との交流

まとめ



- ㊦ SICEでは、ACの英語化をはじめ、今までいくつもの国際化の施策を行ってまいりました。
- ㊦ これからの国際化の施策は、実のある議論ができる場、が重要と考えます。
- ㊦ そのための国際化の指標と施策を検討中です。
- ㊦ **“アジアのトップブランド”をめざします**